

教育資料室だより

No.5 令和3(2021).2.18

発行 桐生市立教育資料室

桐生市小曾根町1-9 電話・FAX (43)3171

あの頃 この街

新川児童遊園地 (その2)

& 桐生が岡遊園地

前号で取り上げた新川児童遊園地は、50代半ば以上の皆様には、さぞやなつかしの場所だったかと思います。写真資料を探してみたら、他にもたくさん見つかり、桐生が岡遊園地の開園当時の頃と思われる写真もありました。

新川児童遊園地は、戦後初の公選市長、前原一治桐生市長が「子供たちのために楽しく遊べる遊園地をつくる」という約束を守って建設に着手し、昭和28年(1953)に開園しました。敷地は、昭和22年(1947)のカスリン台風による氾濫後に改修された新川兩岸の広場を利用しています。飛行塔や観覧車、豆自動車、豆機関車などたくさんの乗り物(今風に言えばアトラクション)が設置され、小さ

な地方都市にある遊園地とは、とても思えない立派な施設で、乗車券も安価だったため、大勢の人で賑わいました。

桐生が岡遊園地は、新川児童遊園地に代わり、昭和46年(1971)に桐生が岡動物園に隣接する形でオープンしました。ということは早いもので、今年で開園からすでに50年も経ちます。しかし、リニューアルを繰り返しながら、まだまだ現役で頑張っています。桐生市内は言うに及ばず、近隣の自治体からも毎年多くの園児や児童が訪れ、屈指の人気観光スポットとなっています。

ところで、今年は市制施行100周年※となる記念の年です。そこで今回は**あの頃のこの街**を写真で振り返る特集号【全4ページ】とし、新川・桐生が岡の両遊園地を紹介します。

なお、桐生が岡遊園地は昨年11月1日から「アースケア桐生が岡遊園地」と改称されています。新川遊園地の写真は昭和30年代から40年代初め頃と思われるです。

☆参照「明日へ伝えたい桐生の人と心」「ふるさと桐生のあゆみ」(桐生市教育委員会刊) 桐生市HP

※ 大正10年(1921)3月1日市制施行

(桐生市HP「市制施行100周年 水道創設90周年」に100年のあゆみが掲載されています)

新川児童遊園地



画角から見て、この手前にあった飛行塔(次ページ)から撮影したと思われます。中央右はメリーゴーランド、奥に架かる橋は盛運橋です。遠くに観覧車も見えます。観覧車の右斜め下には豆機関車と豆自動車がありました。



当初は蒸気機関車(左)だったのが、新幹線ひかり号(下)に変わっています。因みに、東海道新幹線は東京オリンピックが開催された昭和39年(1964)開業です。よく見ると観覧車も写っています。



←こちらが飛行機

見づらいのですがこれが飛行塔です

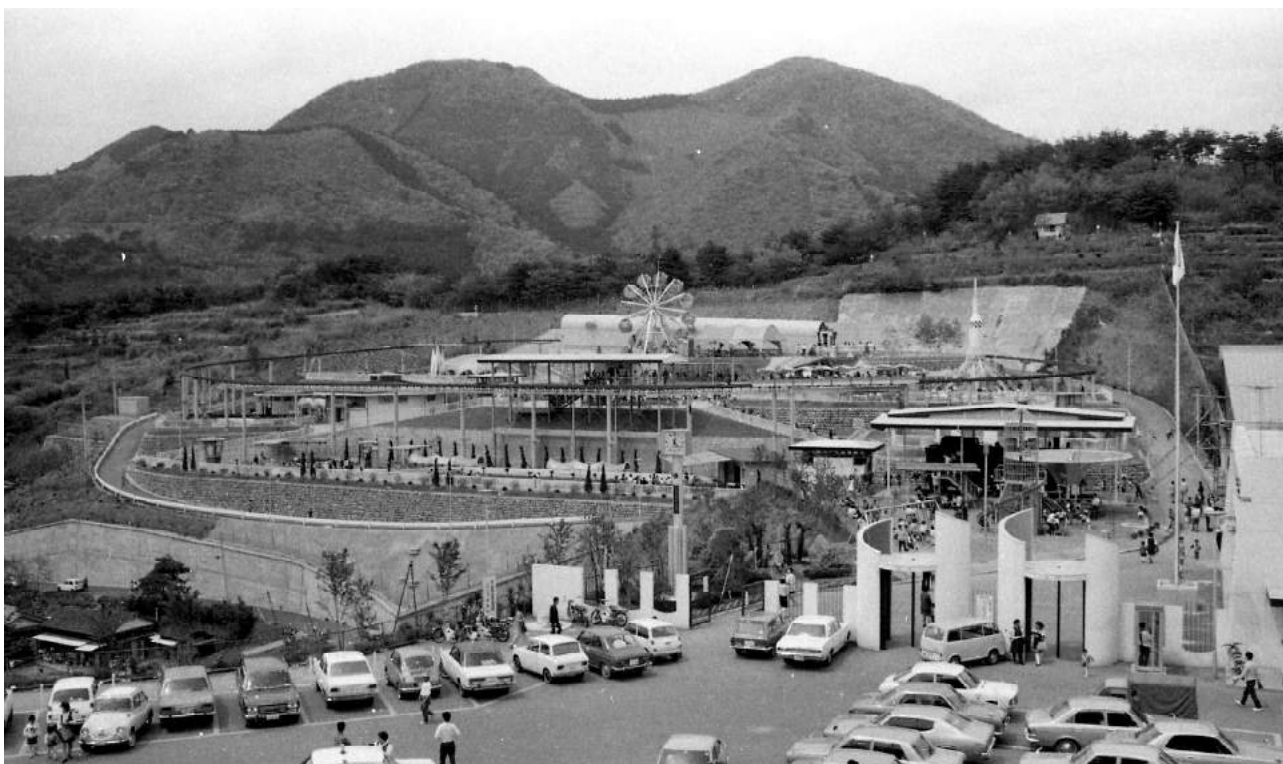


↑ ボートもありました。やはり回転系の乗り物が多いですね



← 乗車待ちの行列ができた豆自動車 ↑
ここにも観覧車が写っています。何となく乗り物の位置関係が想像できますか。

桐生が岡遊園地



↑ 遊園地建設中(上)
完成後(下)

← コーヒーカップ
今はリニューアルされて
メルヘンカップに



← トラバント ↑
アドベンチャーシップの所にあったと
思います



↑ おそらく初代のミニレール 観覧車も見えます



↑ チェーンタワー？今はありません



↑ アストロジェット
今はスカイヘリになっています



↑ たしか機関車の近
くにこんなすべり台が
ありました